(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2009-106366
(P2009-106366A)
(43)公開日　平成21年5月21日(2009.5.21)

(51)Int.Cl.	F I	テーマコード（参考）
A45D 20/10 (2006.01)	A45D 20/10 101	3B040

審査請求 未請求　請求項の数 7　ＯＬ　（全 13 頁）

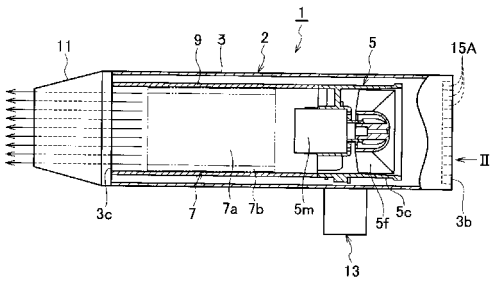
(21)出願番号　特願2007-279297 (P2007-279297)
(22)出願日　平成19年10月26日 (2007.10.26)

(71)出願人　000005832
パナソニック電工株式会社
大阪府門真市大字門真１０４８番地
(74)代理人　100083806
弁理士　三好　秀和
(74)代理人　100095500
弁理士　伊藤　正和
(72)発明者　石川　朋哉
大阪府門真市大字門真１０４８番地　松下電工株式会社内

Ｆターム(参考)　3B040 AD09　BA01　CB01　CB05　CC00

(54)【発明の名称】髪ケア装置

(57)【要約】
【課題】吹出口における風速分布の乱れを抑制できる髪ケア装置の提供を図る。
【解決手段】風洞内に配置されるファン５ｆおよびヒータ７ｂとを備えた温風発生ユニット２を有する髪ケア装置としてのヘアドライヤー１において、風洞内に配置され且つ当該風洞内を流れる風を加湿する加湿手段１５が、ヒータ７ｂの下流端よりも上流側に設けられている。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
上流端および下流端に吸込口および吹出口がそれぞれ開口する風洞と、
前記風洞内に配置されるファンおよびヒータと、
前記風洞内に配置され、当該風洞内を流れる風を加湿する加湿手段と、
を備えて構成された温風発生ユニットを有する髪ケア装置であって、
前記加湿手段は、前記ヒータの下流端よりも上流側に設けられていることを特徴とする髪ケア装置。
【請求項２】
請求項１に記載の髪ケア装置であって、
前記加湿手段は、前記ヒータよりも上流側に配置されていることを特徴とする髪ケア装置。
【請求項３】
請求項２に記載の髪ケア装置であって、
前記ヒータの上流側に前記ファンが配置され、
前記加湿手段は、前記ファンより上流側に配置されていることを特徴とする髪ケア装置。
【請求項４】
請求項１に記載の髪ケア装置であって、
前記ヒータは筒状に形成され、
前記加湿手段は、前記ヒータの内周側において当該ヒータの中心線上に配置されていることを特徴とする髪ケア装置。
【請求項５】
請求項１に記載の髪ケア装置であって、
前記風洞内を前記ヒータが配置される温風通路と前記ヒータが配置されない冷風通路とを仕切る仕切部を備え、
前記冷風通路に前記加湿手段が配置されていることを特徴とする髪ケア装置。
【請求項６】
請求項１～５の何れか１項に記載の髪ケア装置であって、
前記加湿手段は、水分を保水する保水部材で構成され、
前記保水部材としての加湿手段に対して、貯留した水分を供給可能な水タンクを、さらに備えることを特徴とする髪ケア装置。
【請求項７】
請求項１～５の何れか１項に記載の髪ケア装置であって、
前記加湿手段は、水分を保水する保水部材で構成され、
放熱面および冷却面を有する電子冷却素子としてのペルチェ素子をさらに備え、
前記ペルチェ素子の冷却面に結露する水分が前記保水部材に供給されるように設けられていることを特徴とする髪ケア装置。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、髪ケア装置に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来の髪ケア装置としては、上流端に吸込口を有し且つ下流端に吹出口を有する風洞と、前記風洞内に配置されたファンと、前記風洞内に配置されたヒータと、を備えるヘアドライヤーが知られている。特許文献１のヘアドライヤーは、風洞の下流端の吹出口の近傍に、温風を加湿するための保水性を有する加湿材が配置されている。そのため、吹出口からの送風を加湿して、髪に潤いを与えることができる。
【特許文献１】実開昭６２－１９９００３公報

【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
しかしながら、上記従来の髪ケア装置では、加湿材が吹出口近傍に配置にされていることから、吹出口近傍の風速分布が乱れやすい欠点がある。
【０００４】
そこで、本発明は、風洞の吹出口における風速分布を改善できる加湿性能を有する髪ケア装置の提供を図る。
【０００５】
なお、上記従来の髪ケア装置では、加湿材がヒータの下流に設けられているため、ヒータで加熱された高熱の温風に晒されることとなり、加湿材を耐熱性の優れた素材または構造とする必要があり、製造コストが嵩んでしまう問題点もある。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
請求項１に記載の発明は、上流端および下流端に吸込口および吹出口がそれぞれ開口する風洞と、前記風洞内に配置されるファンと、前記風洞内のファンよりも下流側に配置されたヒータと、前記風洞内に配置され、当該風洞内を流れる風を加湿する加湿手段と、を備えて構成された温風発生ユニットを有する髪ケア装置であって、前記加湿手段は、前記ヒータの下流端よりも上流側に設けられていることを特徴とするものである。
【０００７】
請求項２に記載の発明は、請求項１に記載の髪ケア装置であって、前記加湿手段は、前記ヒータよりも上流側に配置されていることを特徴とするものである。
【０００８】
請求項３に記載の発明は、請求項２に記載の髪ケア装置であって、前記ヒータの上流側に前記ファンが配置され、前記加湿手段が前記ファンより上流側に配置されていることを特徴とするものである。
【０００９】
請求項４に記載の発明は、請求項１に記載の髪ケア装置であって、前記ヒータは筒状に形成され、前記加湿手段は、前記ヒータの内周側において当該ヒータの中心線上に配置されていることを特徴とするものである。
【００１０】
請求項５に記載の発明は、請求項１に記載の髪ケア装置であって、前記風洞内を前記ヒータが配置される温風通路と前記ヒータが配置されない冷風通路とを仕切る仕切部を備え、前記冷風通路に前記加湿手段が配置されていることを特徴とするものである。
【００１１】
請求項６に記載の発明は、請求項１～５の何れか１項に記載の髪ケア装置であって、前記加湿手段は、水分を保水する保水部材で構成され、前記保水部材としての加湿手段に対して、貯留した水分を供給可能な水タンクを、さらに備えることを特徴とするものである。
【００１２】
請求項７に記載の発明は、請求項１～５の何れか１項に記載の髪ケア装置であって、前記加湿手段は、水分を保水する保水部材で構成され、放熱面および冷却面を有する電子冷却素子としてのペルチェ素子をさらに備え、前記ペルチェ素子の冷却面に結露する水分が前記保水部材に供給されるように設けられていることを特徴とするものである。
【発明の効果】
【００１３】
請求項１に記載の発明によれば、温風発生ユニットから吹き出される送風（温風または冷風）が、加湿手段により加湿されるため、髪に潤いを与えることができる。
【００１４】
また、加湿手段がヒータの下流端よりも上流側に設けられているため、加湿手段が風洞

の下流端の吹出口に設けられている構造に比べて、吹出口における風速分布の乱れを抑制でき、商品価値を高めることができる。

【００１５】

請求項２に記載の発明よれば、請求項１に記載の発明の効果に加え、加湿手段がヒータよりも上流側に配置されているため、加湿手段がヒータより下流側に配置されている構造に比べて、加湿手段はヒータからの熱影響を受けにくくなり、過剰に熱せられることが回避されるため、加湿手段の耐熱性能をおとして安価に製造できる。

【００１６】

請求項３に記載の発明によれば、請求項２に記載の発明の効果に加え、加湿手段はヒータよりも上流側に配置されたファンよりもさらに上流側に配置されているため、ヒータとの距離がさらに離れることでさらにヒータからの熱影響を受けにくくなる。また、ヒータと加湿手段との間にファンが介在するで、ファンが遮熱部として機能するため、加湿手段はさらにヒータからの熱影響を受けにくくなる。

【００１７】

請求項４に記載の発明によれば、請求項１に記載の発明の効果に加え、加湿手段がヒータの内周側において当該ヒータの中心線上に配置されているため、加湿手段はヒータ内において最もヒータからの距離が遠い位置に配置されることとなり、ヒータによってまだ加熱されていない冷風を受けやすくなる。そのため、加湿手段がヒータよりも下流に設けられた構造に比べて、ヒータからの熱影響を受けにくくなり、加湿手段が過剰に熱せられることが回避されるため、加湿手段の耐久性能を落として安価に製造することができる。

【００１８】

請求項５に記載の発明は、請求項１に記載の発明の効果に加え、温風通路と冷風通路とに区画された風洞内のうち、当該冷風通路に加湿手段が配置されているため、加湿手段はヒータからの熱影響を受けにくくなり、過剰に熱せられることが回避されるため、加湿手段の耐久性能を落として安価に製造することができる。

【００１９】

請求項６に記載の発明は、請求項１～５の何れか１項に記載の発明の効果に加え、加湿手段を構成する保水部材に対して、液体タンクから水分を供給するとができるため、保水部材に対する水分補給の頻度を低減させることができる。また、液体タンクがない構造に比べ、長時間に亘って加湿性能を発揮することができる。

【００２０】

請求項７に記載の発明は、請求項１～５の何れか１項に記載の発明の効果に加え、前記加湿手段を構成する保水部材に対して、ペルチェ素子から水分を供給することができるため、長時間に亘って加湿性能を発揮することができる。

【００２１】

なお、前記加湿手段は、保水部材を利用せずに、冷却面に前記風洞内の風が当たるように配置されたペルチェ素子によって構成されていてもよい。

【発明を実施するための最良の形態】

【００２２】

以下、本発明の実施形態を図面を参照しつつ説明する。

【００２３】

（第１実施形態）図１～２は本発明の第１実施形態にかかる髪ケア装置としてのヘアドライヤーを示す。このうち、図１は第１実施形態のヘアドライヤーの断面図、図２は図１中の矢示ＩＩ方向からみた側面図である。

【００２４】

（構成）

本実施形態にかかる髪ケア装置としてのドライヤー１は、温風発生ユニット２と、温風発生ユニット２の吹出口３ｃに着脱自在に取り付けられた筒状のアタッチメント（フード）１１と、当該温風発生ユニット２に固定的または回転自在に取り付けられたグリップ部１３と、を備えて構成されている。

【００２５】
温風発生ユニット２は、内部に風洞を形成する略円筒状の風洞ケース３内に、ファンユニット５およびヒータユニット７が配置された構造をなしている。このとき、ファンユニット５が上流、ヒータユニット７が下流に配置されている。
【００２６】
風洞ケース３は、風洞の上流端に吸込口３ｂを備え、風洞の下流端に吹出口３ｃを備えて構成されている。
【００２７】
ファンユニット５は、風洞ケース３内に固定された円筒状のファンケース５ｃと、ファンケース５ｃ内に支持されたファンモータ５ｍと、ファンケース５ｃ内においてファンモータ５ｍより上流側に配置されファンモータ５ｍによって回転駆動するファン５ｆと、を備えて構成されている。
【００２８】
ヒータユニット７は、ファンユニット５から供給される送風を加熱するものであり、例えば雲母等の耐熱板を断面十字状に組み合わせて構成されるヒータ固定部７ａと、このヒータ固定部７ａの外周に螺旋状に巻回された例えばニクロム線などの電熱線からなるヒータ７ｂと、を備えて構成されている。
【００２９】
ヒータ７ｂの外周は、断熱部材で形成された筒状のヒータケース９で覆われており、これによりヒータユニット７の熱が風洞ケース３に影響を及ぼすことを回避している。
【００３０】
ドライヤー１のグリップ部１３には、ファンユニット５およびヒータユニット７のＯＮ／ＯＦＦを操作する図示せぬスイッチが設けられている。
【００３１】
スイッチがＯＮされると、ファンユニット５およびヒータユニット７が作動して、温風が吹き出し口から吹き出されるようになっている。なお、スイッチには、ファンモータ５ｍの回転数（ファン５ｆの送風量）を調整する切換え機能や、ヒータ７ｂへの供給電流値（電熱線の発熱量）を調整する切換え機能を付加してもよい。
【００３２】
この実施形態では、風洞内を通る空気を加湿する加湿手段１５Ａが、図２に示すように、風洞ケース３の吸込口３ｂに形成された格子状のグリル部１７に、はめ込まれている。本実施形態では、加湿手段１５Ａは、保水部材１５Ａによって構成されており、保水部材１５Ａは、例えば水などの液体を保水可能な繊維や多孔質のセラミックなどで構成される。
【００３３】
（作用）
次に、本実施形態のヘアドライヤー１の作用を説明する。
【００３４】
グリップ部１３のスイッチによりファンユニット５およびよびヒータユニット７がＯＮすると、ファンユニット５によって吸込口３ｂから風洞内に空気が吸い込まれる。吸い込まれた空気は、当該吸込口３ｂに配置された保水部材１５Ａから水分を奪って加湿された後、ファンユニット５を通過してヒータユニット７で加熱されて熱風となり、風洞ケース３の吹出口３ｃから吹き出され、毛髪に吹き付けられる。なお、スイッチによりファンユニット５のみをＯＮすると、加湿された冷風が吹き出される。
【００３５】
（効果）
このような本実施形態のヘアドライヤー１によれば以下のような効果が得られる。
【００３６】
（１）本実施形態によれば、風洞内に配置されるファン５ｆおよびヒータ７ｂとを備えた温風発生ユニット２を有する髪ケア装置において、前記風洞内に配置され且つ当該風洞

内を流れる風を加湿する加湿手段１５Ａが、ヒータ７ｂの下流端よりも上流側に設けられている。そのため、温風発生ユニット２から吹き出される送風（温風または冷風）が、加湿手段１５Ａにより加湿されるため、髪に潤いを与えることができる。また、加湿手段１５Ａがヒータ７ｂの下流端よりも上流側に設けられているため、加湿手段１５Ａが風洞の下流端の吹出口３ｃに設けられている構造（例えば特許文献１）に比べて、吹出口３ｃにおける風速分布の乱れを抑制でき、商品価値を高めることができる。

【００３７】

（２）また本実施形態によれば、加湿手段１５Ａはヒータ７ｂよりも上流側に配置されている。そのため、加湿手段１５Ａがヒータ７ｂよりも上流側に配置されているため、加湿手段１５Ａがヒータ７ｂより下流側またはヒータ７ｂ内に配置されている構造に比べて、加湿手段１５Ａはヒータ７ｂからの熱影響を受けにくくなり、過剰に熱せられることが回避されるため、高い耐熱性が要求されず、安価に製造することができる。

【００３８】

（３）また本実施形態によれば、加湿手段１５Ａはヒータ７ｂよりも上流側に配置されたファン５ｆよりもさらに上流側に配置されている。そのため、ヒータ７ｂとの距離がさらに離れることでさらにヒータ７ｂからの熱影響を受けにくくなる。また、ヒータ７ｂと加湿手段１５Ａとの間にファン５ｆが介在することとなり、ファン５ｆが遮熱部として機能し、この点においても、加湿手段１５Ａはさらにヒータ７ｂからの熱影響を受けにくくなると言える。

【００３９】

（４）また本実施形態によれば、加湿手段１５Ａは、液体を保水可能な保水部材１５Ａであるため、構造が簡素であり、安価に製造することができ、また取り替えなどが容易である。

【００４０】

次に、他の実施形態について説明する。なお、以下の説明において既に説明した構成については同一符号を付して、重複する説明を省略する。

【００４１】

（第２実施形態）

図３は第２実施形態の髪ケア装置としてのヘアドライヤー１を示すものである。本実施形態のヘアドライヤー１は、第１の保水部材１５Ａが、風洞の吸込口３ｂに設けられている点で第１形態と同様であるが、第２の保水部材１５Ｂが、ヒータ７ｂよりも上流側で且つファン５ｆより下流側に設けられている点で、第１実施形態と異なっている。

【００４２】

より詳しくは、第２の保水部材１５Ｂは、ファンモータ５ｍの外周に対向する位置に配置されており、ヒータケース９の内周面に取り付けられている。

【００４３】

このような第２実施形態によれば、第１実施形態の効果に加え、第１の保水部材１５Ａとは異なる位置に第２の保水部材１５Ｂが設けられているため、第１の保水部材１５Ａおよび第２の保水部材１５Ｂによって、さらに、加湿性能を向上させることができる。

【００４４】

また、新たに設けられた第２の保水部材１５Ｂは、第１の保水部材１５Ａと同様に、ヒータ７ｂの下流端よりも上流側に設けられているため、風洞の下流端の吹出口３ｃに設けられている構造（例えば特許文献１）に比べて、吹出口３ｃにおける風速分布の乱れを抑制でき、商品価値を高めることができる。

【００４５】

また、第２の保水部材１５Ｂは、第１の保水部材１５Ａと同様に、ヒータ７ｂよりも上流側に配置されているため、ヒータ７ｂより下流側またはヒータ７ｂ内に配置されている構造に比べて、ヒータ７ｂからの熱影響を受けにくくなり、過剰に熱せられることが回避され、高い耐熱性が要求されず、安価に製造することができることとなる。

【００４６】

（第３実施形態）
図４は、第３実施形態の髪ケア装置としてのヘアドライヤー１を示すものである。
【００４７】
本実施形態の髪ケア装置は、第２実施形態の第１の保水部材１５Ａおよび第２の保水部材１５Ｂに加えて、さらに第３の保水部材１５Ｃが設けられている点で第２実施形態と異なっている。また、上述の第１、２実施形態では、筒状のファンケース５ｃと筒状のヒータケース９とが略同一径で形成されており、それぞれの接合部が隙間なく形成されていたが、第３実施形態では、ファンケース５ｃとヒータケース９との間に隙間２１が設けられており、当該ファンケース５ｃから吹き出された空気が、ヒータ７ｂが配置されるヒータケース９の内周側だけでなくヒータケース９の外周側（ヒータケース９と風洞ケース３との間の円環状の空間２３）を流れる点で、異なっている。
【００４８】
そして、第３の保水部材１５Ｃは、ヒータケース９の外周側の空間２３に配置されている。
【００４９】
このような第３実施形態によれば、第１、第２実施形態の効果に加え、それぞれ異なる位置に第１、第２、第３保水部材１５Ａ、１５Ｂ、１５Ｃが配置されているため、加湿性能がさらに向上することとなる。
【００５０】
また第３実施形態によれば、風洞内をヒータ７ｂが配置される温風通路とヒータ７ｂが配置されない冷風通路２３とを仕切る仕切部としてのヒータケース９を備えて構成され、冷風通路２３に加湿手段１５Ｃが配置されているため、加湿手段１５Ｃがヒータ７ｂの熱影響を受けずにすみ、高い耐熱性能が不要となる。
【００５１】
（第４実施形態）
図５は第４実施形態の髪ケア装置としてのヘアドライヤー１を示すものである。
【００５２】
第４実施形態のヘアドライヤー１は、上述の加湿手段としての第１～３保水部材を備えずに、これらとは異なる位置に他の加湿手段としての保水部材１５Ｄを備える点で、第１～３実施形態と異なっている。
【００５３】
図５に示すように、保水部材１５Ｄは、筒状のヒータ７ｂの内周側において当該ヒータ７ｂの中心線上に配置されており、ヒータ７ｂの軸方向中間点よりも上流側（ファン５ｆ側）に配置されている。
【００５４】
このような第４実施形態によれば、加湿手段１５Ｄがヒータ７ｂの内周側において当該ヒータ７ｂの中心線上に配置されているため、ヒータ７ｂ内において最もヒータ７ｂからの距離が遠い位置に配置されることとなり、ヒータ７ｂによってまだ加熱されていない冷風を受けやすくなる。そのため、加湿手段１５Ｄがヒータ７ｂよりも下流に設けられた構造（例えば特許文献１）に比べて、ヒータ７ｂからの熱影響を受けにくくなり、加湿手段１５Ｄが過剰に加熱されることが回避されるため、加湿手段１５Ｄの高い耐久性能が不要となる。
【００５５】
（第５実施形態）
図６は第５実施形態の髪ケア装置としてのヘアドライヤー１を示す図である。
【００５６】
第１～第４実施形態では、スポイト等により保水部材１５Ａ～１５Ｄに水分を補充することができるが、第５実施形態においては、保水部材１５Ｅへの液体供給手段を備える構造である。
【００５７】

液体供給手段は、液体タンク２５と、液体タンク２５と連通するキャピラリーチューブ（毛細管）２６と、を備えて構成されている。キャピラリーチューブ２６の出口は、保水部材１５Ｅの表面に付設されるか保水部材１５Ｅ内に埋設され、これにより、保水部材１５Ｅが潤うようになっている。液体タンク２５は注水部２７を備えており、この注水部２７は、風洞ケース３の周壁に設けられた開口を通じて風洞ケース３外に露出しており、この注水部２７が栓２９で開閉できるようになっている。

【００５８】

このような第５実施形態によれば、加湿手段を構成する保水部材１５Ｅに対して、液体タンク２５から水分を供給するとができるため、保水部材１５Ｅに対する水分補給作業の頻度を低減させることができる。また、液体タンク２５がない構造に比べ、長時間に亘って加湿性能を発揮することができる。

【００５９】

（第６実施形態）

図７、８は第６実施形態の髪ケア装置としてのヘアドライヤー１を示す図である。

【００６０】

第６実施形態においては、保水部材１５Ｆへの液体供給手段の構成が、第５実施形態と異なる。すなわち本実施形態の液体供給手段は、電子冷却素子としてのペルチェ素子３１で構成されている。

【００６１】

ペルチェ素子３１は、通電することで放熱面３１ｂから熱を放熱するとともに冷却面３１ａが冷却されるものであり、この冷却面３１ａに結露する水分を保水部材１５Ｆに供給できるようになっている。放熱面３１ｂは冷却性能を高めるために放熱フィン３３を備えて構成され、一方、水分が結露する冷却面３１ａは、直接または間接的に保水部材１５Ｆに接触し、これにより結露した水分が保水部材１５Ｆに供給される。なお、ペルチェ素子３１の放熱面および放熱面３１ｂに一体に設けられた放熱フィン３３に対応する位置には、風洞ケース３の周壁に開口が形成されており、ペルチェ素子３１の放熱性が確保されている。

【００６２】

例えば、ヘアドライヤー１の不使用時に、内部充電池などによりペルチェ素子３１に通電することにより、保水部材１５Ｆを潤わせることができる。

【００６３】

このような第６実施形態によれば、保水部材１５Ｆへの液体供給手段３１をさらに備える構造であるため、保水部材１５Ｆに対して、水分補給作業が不要となる。

【００６４】

（変形例）

なお、変形例として、保水部材を備えずに、加湿手段をペルチェ素子３１として構成してもよい。つまり、ペルチェ素子３１の冷却面３１ａに対して前記風洞内の風が当たるように当該ペルチェ素子３１を配置することで、ペルチェ素子３１の冷却面３１ａに結露する水分によって、送風される空気を加湿すればよい。

【００６５】

（第７実施形態）

図９～図１１は第７実施形態の髪ケア装置を示す図である。

【００６６】

第７実施形態の髪ケア装置はヘアアイロンである点で、第１～第６実施形態と異なる。本実施形態のヘアアイロン１００は、図９、１０に示すように、互いに回転自在に装着されて狭持自在に設けられた一対の胴部１０１、１０３と、前記一対の胴部１０１、１０３の狭持面において髪を挟み込んで加熱する一対のアイロン板１０１ｂ、１０３ｂと、少なくとも一方のアイロン板１０１ｂ、１０３ｂを加熱する図示せぬヒータと、備えて構成されている。

【００６７】

一対の胴部１０１、１０３の少なくとも一方（この例では胴部１０１）には、図１１に示すように、内部に第１実施形態の温風発生ユニット２が配置されており、また、当該温風発生ユニット２から吹き出される温風を胴部１０１の外部に吹き出す吹出口１０５が設けられている。この胴部１０１の吹出口１０５は、アイロン板１０１ｂの近傍に設けられている。

【００６８】

そのため、このようなヘアアイロン１００によれば、一対の胴部１０１、１０３に巻き取った髪に対して加湿された風（温風または冷風）を吹き出すことができ、髪にウエーブをかけたり癖毛を直したりしながら、髪に潤いを与えることができる。

【００６９】

（第８～１２実施形態）

図１２～図１６は、第８～第１２実施形態のヘアアイロン１００を示す図である。

【００７０】

図１２の第８実施形態のヘアアイロン１００は第２実施形態の温風発生ユニット２を内蔵し、図１３の第９実施形態のヘアアイロン１００は第３実施形態の温風発生ユニット２を内蔵し、図１４の第１０実施形態のヘアアイロン１００は第４実施形態の温風発生ユニット２を内蔵し、図１５の第１１実施形態のヘアアイロン１００は第５実施形態の温風発生ユニット２を内蔵し、図１６の第１２実施形態のヘアアイロン１００は第６実施形態の温風発生ユニット２を内蔵している。これによりいずれの実施形態においても上述の実施形態と同様の作用効果を得ることが得られるため、重複する説明を省略する。

【００７１】

なお本発明の髪ケア装置は上述の実施形態に例をとって説明したが、これら実施形態に限定解釈されるべきではなく本発明の要旨を逸脱しない範囲で他の実施形態を採用することができる。例えば、ヘアドライヤー、ヘアアイロンに限ることなく、ヘアーブラシやその他の髪ケア装置にあっても本発明を適用することができる。

【図面の簡単な説明】

【００７２】

【図１】図１は本発明の第１実施形態の髪ケア装置としてのヘアドライヤーを示す断面図。

【図２】図２は図１中の矢示ＩＩ方向からみた側面図。

【図３】図３は第２実施形態の髪ケア装置としてのヘアドライヤーを示す断面図。

【図４】図４は第３実施形態の髪ケア装置としてのヘアドライヤーを示す断面図。

【図５】図５は第４実施形態の髪ケア装置としてのヘアドライヤーを示す断面図。

【図６】図６は第５実施形態の髪ケア装置としてのヘアドライヤーを示す断面図。

【図７】図７は第６実施形態の髪ケア装置としてのヘアドライヤーを示す断面図。

【図８】図８は第６実施形態のヘアドライヤーに用いられるペルチェ素子と保水部材とを拡大して示す断面図。

【図９】図９は第７実施形態の髪ケア装置としてのヘアアイロンを示す断面図。

【図１０】図１０は同ヘアアイロンを示す側面図。

【図１１】図１１は図１０中のＸ－Ｘ断面図。

【図１２】図１２は第８実施形態の髪ケア装置としてのヘアアイロンを示す斜視図。

【図１３】図１３は第９実施形態の髪ケア装置としてのヘアアイロンを示す断面図。

【図１４】図１４は第１０実施形態の髪ケア装置としてのヘアアイロンを示す断面図。

【図１５】図１５は第１１実施形態の髪ケア装置としてのヘアアイロンを示す断面図。

【図１６】図１６は第１２実施形態の髪ケア装置としてのヘアアイロンを示す断面図。

【符号の説明】

【００７３】

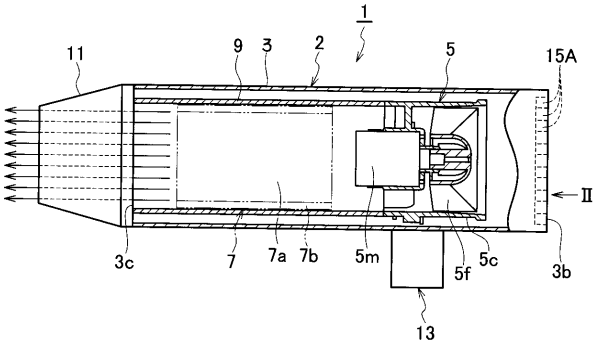
１…ヘアドライヤー（髪ケア装置）

２…温風発生ユニット

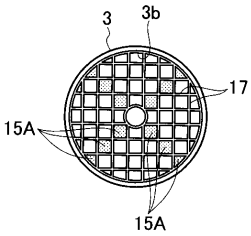
３…風洞ケース

３ｂ…吸込口
３ｃ…吹出口
５…ファンユニット
５ｃ…ファンケース
５ｆ…ファン
５ｍ…ファンモータ
７…ヒータユニット
７ａ…ヒータ固定部
７ｂ…ヒータ
９…ヒータケース
１１…アタッチメント
１３…グリップ部
１５Ａ…保水部材（加湿手段）
１５Ｂ…保水部材（加湿手段）
１５Ｃ…保水部材（加湿手段）
１５Ｄ…保水部材（加湿手段）
１５Ｅ…保水部材（加湿手段）
１５Ｆ…保水部材（加湿手段）
１７…グリル部
２１…隙間
２３…冷風通路
２５…液体タンク（液体供給手段）
２６…キャピラリーチューブ
２７…注水部
２９…栓
３１…ペルチェ素子（液体供給手段）
３１ａ…冷却面
３１ｂ…放熱面
３３…放熱フィン
１００…ヘアアイロン（髪ケア装置）
１０１…胴部
１０１ｂ…アイロン板
１０５…吹出口

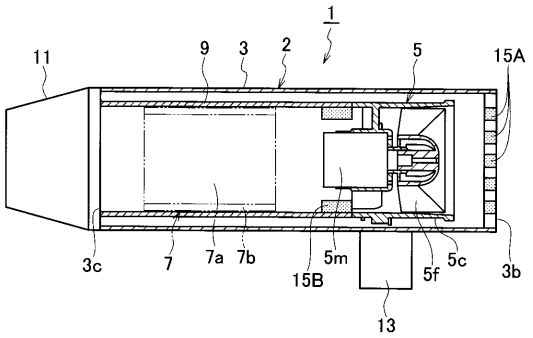
【図１】



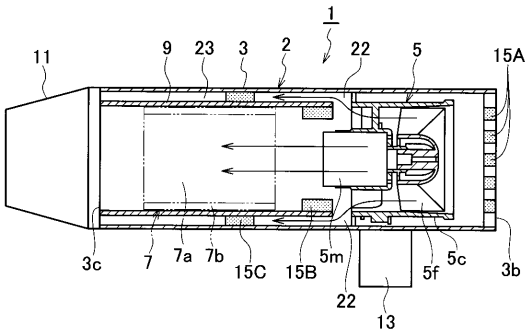
【図２】



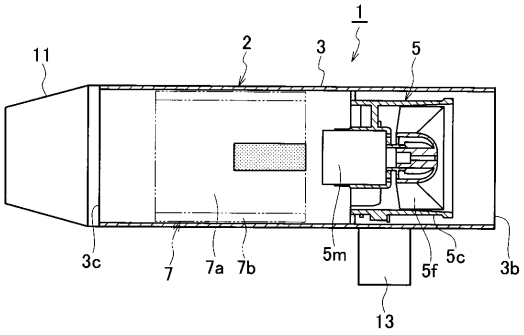
【図３】



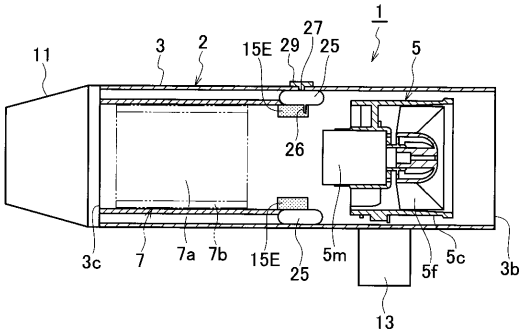
【図４】



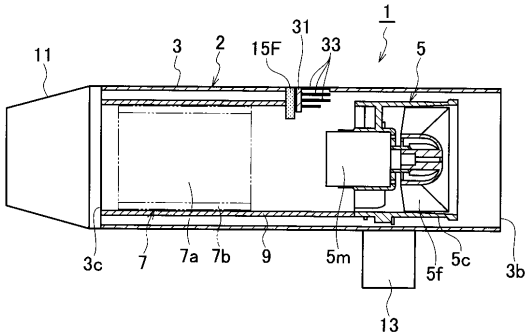
【図５】



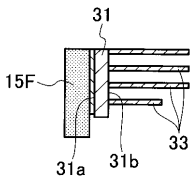
【図６】



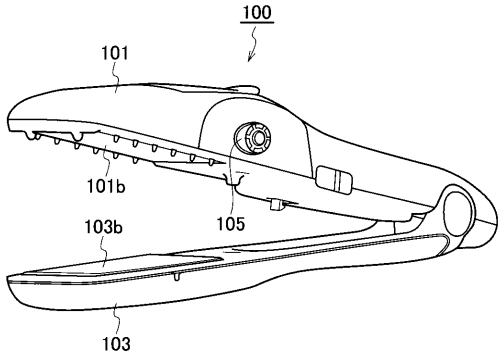
【図７】



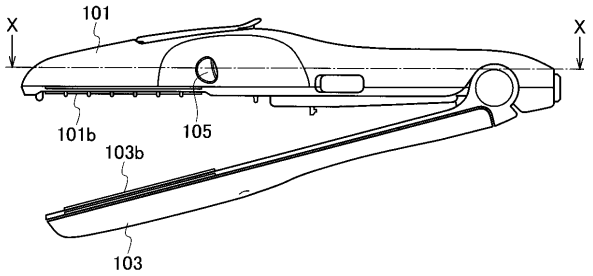
【図８】



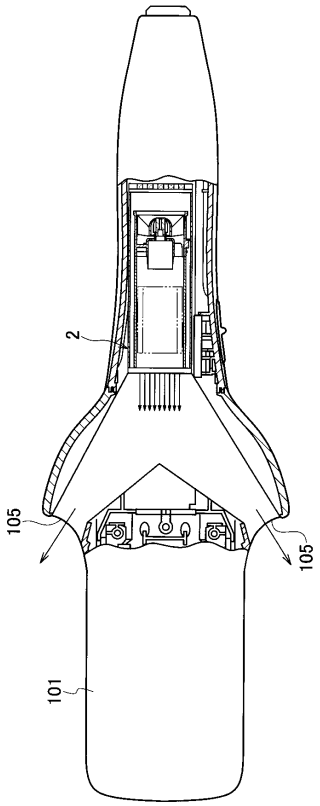
【図９】



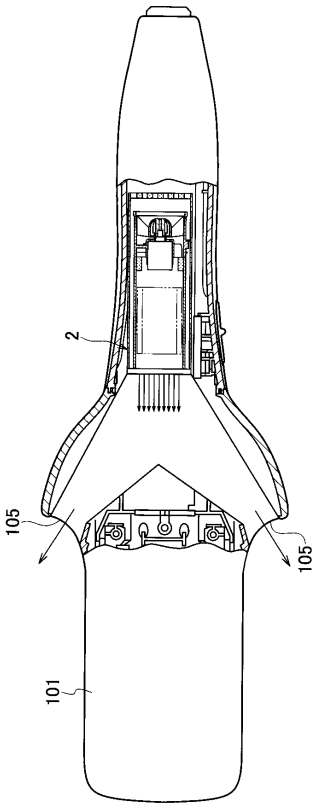
【図１０】



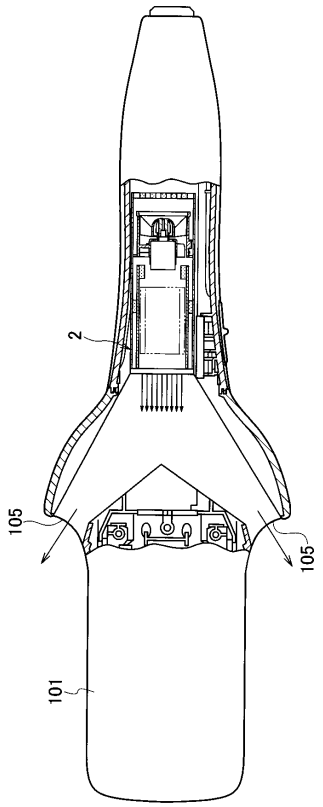
【図１１】



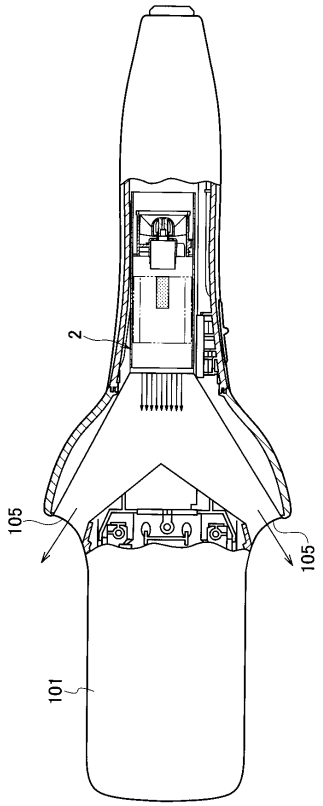
【図１２】



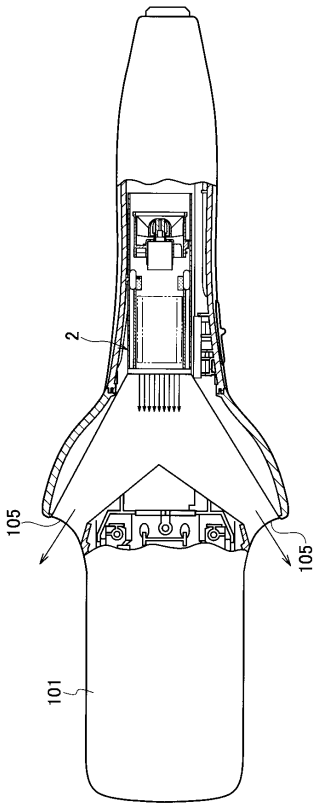
【図１３】



【図１４】



【図１５】



【図１６】

